

32. 初瀬街道

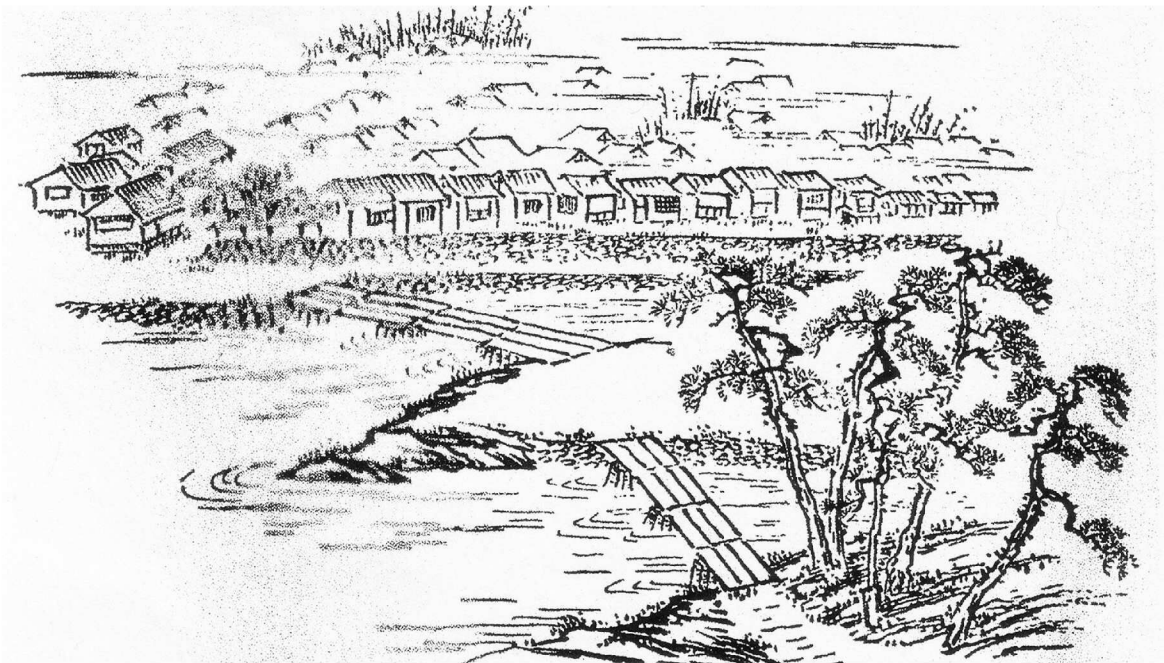
昔は、大阪や奈良の方から伊勢に行くには、名張を通りました。名張市のどの町を通っていたのでしょうか。

1. 宿場町

初瀬街道は現在の松阪市六軒から青山峠を越えて、名張を通って奈良県の初瀬までつながる道でした。現在の国道165号線や近鉄大阪線に沿うようなコースをたどる道で、古代には壬申の乱の際、大海人皇子が名張を通った道であり、また、天皇に代わって伊勢神宮に仕えた斎王が通った道でもあります。江戸時代には、国学者の本居宣長が奈良県吉野への旅をした時この道を通りました。このころには、お伊勢参りの人々や商人の行き来で街道沿いはたいそうにぎやかでした。時には、大名や上級武士の集団も通りました。街道のコースは、江戸時代中ごろまでは、安部田—丈六—名張—原出—下小波田（赤目コース）を通りました。それ以降は、安部田—黒田—名張—蔵持—新田（錦生コース）を通りました。

街道の途中にあった名張は、旅人の泊まる宿屋がたくさん立ち並んでいました。夕方になると、宿屋の人が大きな声で道行く旅人たちに声をかけて呼び込んでいました。旅人の多くは「はたご」と呼ばれる宿で泊まりましたが、大名が泊まった「本陣」や家臣たちが泊まった「脇本陣」もありました。

そのころの名張の町は、現在の名張小学校や名張中学校のところに名張藤堂家の御殿があり、丸之内や柳原町には、武士の家が並んでいました。江戸時代の中ごろには家の数が600軒ほどで、人口は2000人余りでした。



初瀬街道にかかった江戸時代の黒田橋と新町橋（『伊賀国名勝図』より）

初瀬街道 【→P59】 宿場町 【→P45】
大海人皇子 【→P40】
藤堂家の御殿 【→P44,79,82】

2. 初瀬街道のコース

開立坂
旅の安全を願って建てられたものこの辺りは交通の難所でした。

常夜灯（新田）
1866（慶応2）年に建てられ、初瀬街道を通る人たちの道しるべとなっていました。

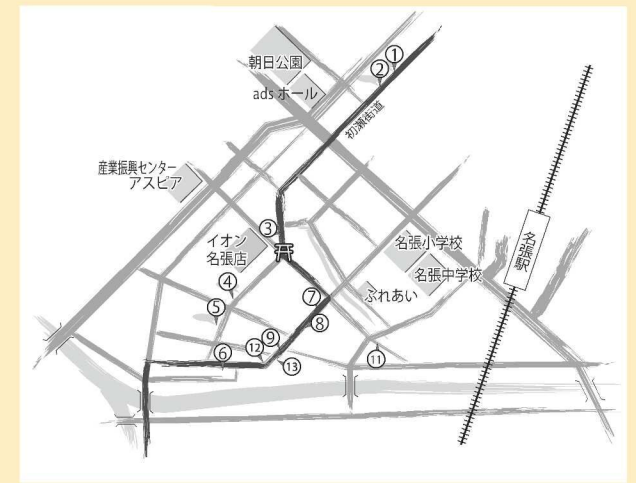
江戸時代の名張市について調べてみましょう。

道標
伊勢までの道しるべ。

菅笠日記の碑
国文学者本居宣長が松阪から吉野へ旅をした際、この地で作った短歌の石碑。

初瀬街道
— 赤目コース
— 錦生コース
— 国道
— 近鉄電車

- 旧町にある登録有形文化財
- ①梅田家住宅主屋 他（上八町）
 - ②山口家住宅主屋（ 〃 ）
 - ③小川家住宅主屋 他（榊町）
 - ④中井家住宅主屋（元町）
 - ⑤川地写真館（新町）
 - ⑥旧細川家住宅主屋 他（ 〃 ）
 - ⑦岡村家住宅主屋（本町）
 - ⑧大和屋店舗（ 〃 ）
 - ⑨木屋正酒造店舗他主屋（ 〃 ）
 - ⑩保田家住宅主屋 他（上本町）
 - ⑪貝増家住宅主屋（柳原町）
 - ⑫山中家住宅主屋 他（本町）
 - ⑬旧喜多藤別館 他（本町）
- 2022（令和4）年3月現在



常夜灯 【→P37】